

MANTIE DIAOCHA BAOGAO

遼寧省檔案館 編

滿鐵調查報告

第四輯

16

SHANXI NORMAL UNIVERSITY PRESS
山西師範大學出版社



滿鐵調查報告

MANTIE DIAOCHA BAOGAO

第四輯

16

遼寧省檔案館 編

GUANGXI NORMAL UNIVERSITY PRESS
广西师范大学出版社

· 桂林 ·



奉海鐵道與葫蘆島築港問題

滿鐵庶務部調查課 一九二六年二月 1

滿鐵調查資料第八十八編 南滿三港海運情況

滿鐵庶務部調查課 一九二八年十二月 165

滿鐵調查資料第六十四編 東三省度量衡

滿鐵庶務部調查課 一九二七年三月 313



奉海鐵道與葫蘆島築港問題

奉海鐵道と葫蘆島築港問題

南滿洲鐵道株式會社

庶務部調査課

葫蘆島築港問題は二十年來の懸案である、該築港計畫の動機は大連港の出現以來滿蒙の利權日に外溢するを憂ひ之を抵制せんが爲め渤海灣に不凍港を得んとして時の東三省總督徐世昌が英人技師ヒューズ氏をして調査せしめた結果葫蘆島を最適地として進言したに依る、而して明治四十三年ヒューズ氏の計畫により築港工事に着手したが翌四十四年第一革命勃發するに及び工事を中止するに至つた、爾來今日に至る迄間歇的に葫蘆島の築港問題起りて世目を惹いたが何れも支那の内亂及財政不如意等の爲め實現するに到らなかつたものである、然るに今回支那關稅會議に於て關稅增收の使途の一項目として交通部の提出せる支那鐵道交通建設計畫大綱（參考書類參照）の一に葫蘆島の築港を加へて居る點から見て交通部當局が同築港を如何に重視するかを知るべく又葫蘆島の背後地に於ける其培養線たるべき奉海鐵道、打虎山、通遼鐵道、洮昂鐵道、錦朝鐵道及其延長線等の諸鐵道が最近に至つて計畫され其一部分が既に完成し又は起工せられんとする大勢と相俟つて其吞吐港たるべき葫蘆島の築港も實際問題として議せられんとする趨勢は必ずや之れを實際化せしむべく斯くて葫蘆島問題の解決も決して遠き將來にあらざることを想はしむるのである、葫蘆島の築港及前記各鐵道の完成は南滿線及大連港の大打撃にして因て被るべき經濟的損害は蓋し想像に餘りあるであらう吾人は今にして之が對策

を譲するに非ざれば他日噬臍の恨みを貽さんことを恐る。

葫蘆島築港問題に關する詳細なる報告に至つては前課員星武雄著「連山灣問題に就て」及住吉平治著「臨海鐵道と諸問題」の書中に盡されて居る、本書は只奉海鐵道と葫蘆島築港の關係並に同島の築港を促進せしむる前記各鐵道の大體に就て簡單なる解説を加へたものであつて最後に關係書類を配し一冊に纏めたるは本文の考證に資すると共に資料の散逸を恐れたが爲である、編中意見に屬するものは總て筆者竹内虎治の意見であつて固より會社の意見ではない。

大正十四年十二月

庶務部調査課

目次

第一章 奉海鐵道……………	一
第一節 概 說……………	一
第二節 工事の現況……………	二
第三節 本鐵道の價值……………	五
第四節 汽車公司輕便鐵道に及ぼす影響……………	七
第五節 滿鐵に及ぼす影響……………	八
第二章 葫蘆島の築港問題……………	一二
第一節 問題の由來……………	一二
第二節 打虎山、通遼線……………	一四
第三節 錦朝線及其延長線……………	一六

第三章 結 論

論……………一八

參考書類

(第一)奉海鐵道ニ關スル書類……………二一

一、奉海鐵路公司章程 (譯文) 二、奉海鐵路公司奉天市場租領地畝章程 (譯文)

三、奉海鐵路用地買收に關する佈告

(第二)開海線ニ關スル書類……………三九

一、滿蒙四鐵道借款豫備契約 二、開拓長途鐵軌汽車有限公司章程 三、開拓汽

車公司重役表 四、開拓汽車公司と和登商行との鐵道材料及車輛賣買契約書

(第三)葫蘆島築港ニ關スル書類……………六〇

一、奉天省開港計畫書 (徐世昌) 二、葫蘆島開港情形調查書 (工程司ヒューズ)

三、築港工事建築條例 四、築港工事見積説明書

(第四)雜關係書類……………一三六

一、交通部に致せる京奉鐵路局の呈文 (譯文)

溝帮子、奉天間線路軌條を入十五磅レールと爲すの件及打虎山、通遼支線建造用

レール購買入札の件……………一三六

二、支那鐵道交通建設計畫大綱（譯文）……………一三八

目

次

三

奉海鐵道と葫蘆島築港問題

第一章 奉海鐵道

第一節 概説

奉海鐵道は奉天、海龍間約百五十二哩の鐵道であつて奉天、吉林間豫定鐵道の一部をなすものである、本鐵道は奉天省當局が交通部の許可を得て立案計畫した官民合辦の事業であつて今其概念を明にする爲め奉海鐵路公司の章程を摘記する

資本金は奉天大洋二千萬元、株式を二十萬株に分ち一株百圓とし、株券は百株券（一萬元）十株券（一千元）一株券（百元）の三種に分ち最初商民間に募集し殘額は省當局に於て引受くる事とし將來商民の株主増加する時は官憲の引受數を減少す、株金は東三省官銀號に於て代收し四期に分ちて之を納入す、株金拂込期日は第一回十四年六月末、第二回同年十二月末、第三回十五年六月末、第四回同十二月末、但し年利は六歩とす。

以上の規約の下に直に株式募集に着手せしも第二牽直戰直後の疲弊せる財政と困窮の極にある省民

奉海鐵道と葫蘆島築港問題

二

間には其の應募はかどらず、行き惱の形となりしかば省當局は十四年四月に至りて之を省借款の如き形式を取り各縣を三等級別に分ち一等縣は三十萬元、二等縣は二十萬元、三等は十萬元を強制的に出資せしむるの策を講し兎に角八月一日より起工するの運びに至つたものである。

奉海鐵路公司の總事務所は奉天北大邊門外八王寺に置き其役員の顔振は左の如くである。

公司總理 王 鏡 寰 現奉天省政務廳長

技師長 陳 樹 棠 現省長公署第二科長

總務課長 富 維 驥 元四洮鐵路局總務處長

工程課長 張 國 賢

第二節 工事の現況

工事は全路を三段に分ち奉天を起點とし四十哩の箇所即ち營盤迄を第一段とし撫順城外に其工程處を置き更に第二段工程處は老虎嶺に、第三段工程處を奉天起點八十三哩の八家子に設け又各段を數工區に分ちて工事を遂行することとした、而して各段長及各工區主任は左の如し

第一段工程處

第一段段長

章 允 裕

第一工區主任 技師 胡 儒 行
 第二工區主任 同 過 銘 忠
 第三工區主任 同 黃 慶 沂
 第四工區主任 同 史 通
 尙一工區は平均十哩宛を受持たしむるものとす

第二段段長 技師 寥 鴻 献

第一工區主任 同 孟 氏

第二工區主任 同 吳 瀛 梁

第三工區主任 同 張 耀 光

第三段段長 同 藍 田

工區主任 未 祥

工事は凡て請負制度であつて請負方法は競争入札に依る、現在請負人の殆んど凡ては支那人である、
 土工は十一月初旬現在に於て○哩より三十一哩附近迄九分通り出来上り居るも橋梁其他の建造物が完
 成して居ない、軌道は奉天城外起點附近に僅々一、二哩を敷設せるに過ぎざるも大體時局に關係なく
 工事を進めて居る様であつて奉天撫順間は舊正月迄に運轉を開始する豫定なりと云ふ。

第一章 奉海鐵道

奉海鐵道と葫蘆島築港問題

四

鐵道材料は内外各商に入札せしめた結果軌條及其附屬品並機關車は英商安利洋行、枕木は王省長の關係せる泰平公司、客貨車は安利洋行及大阪汽車會社、電信材料は和登商行にそれ〴〵落札し軌條は已に約三分の一到着し機關車六臺も到達して目下京奉鐵道唐山工場に於て組立中なりと云ふ、然るに客貨車の注文に手違を生じ最近漸く全數の約五分三を大阪汽車會社に、殘額五分の二を安利洋行に納入せしむることに決定したが其納入到着期が早きは四箇月遅きは十箇月後となるを以て線路一部竣成近きにある際應急の策として京奉若くは滿鐵より借入れんとして居る。而して大阪汽車會社に注文せる車輛は大體左の通なりと

一、二等合造車	二輛
二等車	四輛
二、三等合造車	四輛
三等手荷物合造車	四輛
三等車	五輛
無蓋貨車	一五輛
平車	二八輛
バラスト車	二三輛

緩急車

一六輛

京奉鐵道と奉海鐵道の聯絡に就ては兩當局者に於て折衝中であつたが協議纏まり京奉鐵道の延長たる奉天環城線と大北邊門の東方に於て聯絡することとなつた。而して該環城線と奉海線の東北方に約九十萬坪の鐵道附屬地を設定し之を奉天市場と命名し市街計劃をなし過般來商民に開放貸下げを開始したが數日間は商民の申込殺到し殆んど應接に遑なかつたと云ふ、然れども奉浙戰の勃發以來申込頓に減じたるも約三分の一は已に貸下濟である當事者は道路の築造を急ぎつゝあつたが幹路は大體竣工したと云ふ（奉海鐵路公司奉天市場租領地畝章程參照）

第三節 本鐵道の價值

本鐵道の勢力範圍は

撫順縣の北部、興京縣、通化縣の一部、柳河縣、濛江縣、輝南縣、樺甸縣、盤石縣、海龍縣、東豐縣、開原縣の東半部

であつて其主要產物は云ふ迄もなく農作物である、右の中、撫順、興京、通化の各縣は現在我撫順驛、柳河縣以下の諸縣は我開原驛の勢力圏に屬するものである、而して最近三ヶ年に於ける撫順及開原驛の發送貨物數量を見るに（單位噸）

奉海鐵道と葫蘆島築港問題

六

年 別	撫順發送	開原發送	計
十一年度	一〇六、六〇四	五五六、一四五	六六二、七四九
十二年度	一四四、五五一	五〇八、一四六	六五二、六九七
十三年度	一一五、六八〇	四九五、九六九	六一一、六四九

備考 撫順發送中には石炭及社用品を含ます

開原發送貨物の大部分は前記各縣所産の農産物である。

即ち撫順及開原兩驛發送の農産物數量は一ヶ年六十五萬噸内外にして本鐵道敷設により撫順驛發送農産物の大部分及開原驛發送農産物中西安、西豐及開原縣所産農産物を除いた殘額全部は本鐵道に吸收せらるべきものである、而して西安、西豐及開原縣より開原驛に出廻る數量は正確なる數字を擧げること困難なれども大體同驛發送貨物數の半額と見て大差ないであらう。

此推定にして誤りなしとせば奉海鐵道の吸收し得る農産物の數量は現在撫順驛發送農産物の約十二、三萬噸及開原驛發送貨物の約二十七、八萬噸合計四十萬噸位である。

以上は開業當時に於ける農産物のみの輸送數量であるが本鐵道敷設による經濟距離の短縮により從來鐵道沿線より遠く離れた興京、通化、柳河、輝南、濛江等奥地の開發を促すべく自然輸送貨物の増加を來すことは明かなことである。